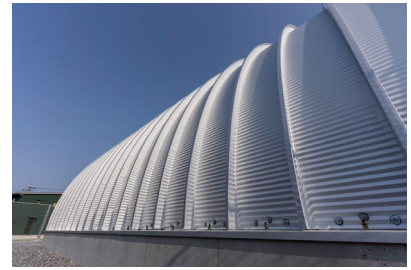


～建設費用が重量鉄骨の半額！驚異のコストメリット「スチールアーチ」

～大空間の自由設計でありながら物価高騰の救世主～



株式会社 STEEL ARCH（岐阜県岐阜市日野東 4 丁目 4 番 17 号 代表取締役二村幸芳：以下スチールアーチ）は、昨今の建築資材の高騰による工期遅延や建設中止等の社会的な課題を解決すべく、自社オリジナルの金属建材での内製化を実現。全国展開をすべく施工パートナー制（専門工事業）を構築し、安定品質で意匠性、耐久性のある高品質な建築物「スチールアーチ」を提供しています。

ウクライナ侵攻の終焉が見えないなか、アフターコロナにフェイズが移行した後も、アイアンショックやウッドショックと呼ばれる建築資材の高騰が現在も続いています。非住宅の鉄骨造の場合、2020 年以前までは 1 トンあたり 6 万円前後が相場でしたが、2023 年に入るとこの値段が急騰し、およそ 2 倍の 13 万円台にまでに高騰してきています。また労働賃金の向上や人材不足による人工単価も高騰しており、坪単価も地域によって多少誤差はあるものの全国平均 120 万から 130 万円台と 1.5 倍近くになっています。

また一般住宅においては更に悪い影響がでてきています。建材の高騰はもちろんのこと、政府による異次元緩和から一転、引き締め策を視野に入れ始めた日銀が 2024 年 7 月末に政策金利を 0～0.1% 程度から 0.25% 程度に引き上げたため、各行がそれに合わせて変動型の住宅ローン金利を上げ始めました。今後もアメリカの雇用調整や円安の影響から金利も上昇すると考えられます。

本事業での「スチールアーチ」のメリットはコスト面です。物価高騰の中、オリジナルの金属建材と成型機を内製化しておりワンストップでの安定提供となります。鉄骨造の建築物が坪単価@120 万円に対して、本商品は坪単価@50 万円と約半分のコストでの建築が可能です。また基礎工事終了後、建物サイズにもよりますが建て方が「2 日間程度」で済むことから、人件費のコストも抑えられ短納期となります。

<https://x.gd/sjBfe>

間口は最大 10m、奥行きは 465 mm ピッチの R 加工した建材を嵌合し 20m まで施工可能です。アーチ材は一本物のジョイントレスなので雨漏りの発生もありません。また断熱性を考慮したインシュレーション工法（断熱材を充填した 2 重工法）も確立しており、建物用途の選択肢が更に広がっています。風・積雪・地震に対する構造計算を行い、一般財団法人 日本建築センター（BCJ）鉄鋼系住宅構造審査委員会の審査において建築基準法で定められた基準（長期荷重・積雪荷重・風荷重）をクリアしていますので日本全国どこでも建築可能です。

アフターコロナとなり第五類に移行されても、コロナ前の盛況な状況に戻り切っていないのが現状です。毛建築業界における 2024 年問題や物価高騰により予算があわず断念してきた建築物が多くあるかと思えます。スチールアーチはそんな状況に非常に強い商品だと自負しています。アプローチを変えることで倉庫や工場、ガレージでの用途だけでなく店舗やオフィス、宿泊施設そして住居としての使用も可能です。スチールアーチを通じて、業界の新たなトレンドとして牽引していきます。